

京都市都市計画審議会 第4回持続可能な都市検討部会
会 議 録

日時 平成30年2月2日 午後3時15分～午後4時50分
場所 御所西 京都平安ホテル

京都市都市計画審議会 持続可能な都市検討部会事務局

京都市都市計画審議会 持続可能な都市検討部会委員名簿
(五十音順, 敬称略)

学識委員

板谷 直子	立命館大学客員准教授
奥原 恒興	京都商工会議所専務理事
川崎 雅史	京都大学大学院教授
小原 雅人	市民公募委員
佐藤 由美	奈良県立大学准教授
島田 洋子	京都大学大学院准教授
須藤 陽子	立命館大学教授
中嶋 節子	京都大学大学院教授
八田 真理子	市民公募委員
葉山 勉	京都精華大学教授
牧 紀男	京都大学教授
宮川 邦博	公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター専務理事

1 開会

○事務局 ただ今から「京都市都市計画審議会 第4回持続可能な都市検討部会」を開催いたします。司会進行は、都市計画局都市企画部都市計画課の佐々木が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、お配りしております資料の議事次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、開会に当たりまして、京都市都市計画局長の鈴木より一言御挨拶を申し上げます。

○鈴木都市計画局長 都市計画局長の鈴木です。本日は第4回の部会であり、多くの委員の先生方には先ほどの会議に引き続き長時間の会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。申し上げます。

これまで、人口の問題、産業・働く場の問題等、様々な切り口から御審議をお願いしてきましたが、今回は、これまでいただいた御意見も踏まえまして、それぞれの地域ごとに京都市の中でどのような役割分担をしていけば良いのか、あるいはそれぞれの地域における課題は何かとの構築いうことに歩みを進めてまいりたいと考えております。是非、本日も持続可能な都市に向けまして、忌憚のない御意見を頂戴しますとともに、我々としましても今後また検討を深めさせていただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、本日の委員の皆様のお出席状況について報告させていただきます。本日は委員12名の皆様に御出席をいただいております。ありがとうございます。

次に、資料の確認をお願いいたします。

- ① 議事次第
- ② 委員名簿
- ③ 資料1 持続可能な都市の構築の方向性等について
- ④ 資料2 都市計画マスタープランにおける都市構造のイメージ
- ⑤ 資料3 今後の想定スケジュール
- ⑥ 参考1 持続可能な都市の構築の検討について（資料編）

以上でございます。今一度、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、以降の進行につきましては川崎部会長にお願いしたいと存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○川崎部会長 各委員の皆様はお忙しい中、前の会議から引き続き、また他の委員の皆様も御出席いただきましてありがとうございます。

議事に入ります前に、会議の公開について決定したいと思います。本部会は原則公開としておりますが、内容により公開すべきではないと判断した場合は非公開にすることができるよう規定されております。本部会の決定によりまして会議を非公開にすることができますが、委員の皆様から御意見がなければ、原則どおり「公開」としたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○**川崎部会長** ありがとうございます。それでは、御意見がないようですので、本日の会議は公開して運営させていただきます。

事務局から、傍聴希望者がおられましたらお願いします。

○**事務局** ありがとうございます。それでは傍聴者に御入場いただきます。本日は一般傍聴者と報道関係者が来られています。なお、報道関係者から部会の冒頭部分の撮影につきまして申し出がございましたので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、報道関係者の方には冒頭部分の撮影を行っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

(数分、撮影時間を設ける)

○**事務局** ありがとうございます。なお、傍聴者の皆様にお願いがございます。受付時にお渡ししております注意事項のとおり、拍手や発言等による会議の妨害行為等が認められた場合、会長の命令により退場いただく場合がございますので、あらかじめ御了承いただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、会長よろしくお願いいたします。

2 議事

○**川崎部会長** それでは、ただ今から審議に入ります。これからの議事運営につきましては、各委員の皆様方の御協力をお願いいたします。いつも忌憚のない御意見、貴重な御意見をいただいておりますので、今回もどうぞよろしくお願いいたしますと思います。

本日は最初に議事(1)として「持続可能な都市の構築の方向性等」についての審議を行います。その後、議事(2)として「今後の想定スケジュール」を確認したいと考えております。

(1) 持続可能な都市の構築の方向性等について

○**川崎部会長** それでは、1つ目の議題であります「持続可能な都市の構築の方向性等について」事務局より御説明をお願いいたします。

資料1

○**事務局** それでは、事務局から御説明させていただきます。

お手元の資料1を御覧ください。「持続可能な都市の構築の方向性等について」でございます。

資料のスライドごとに、右下ページにNo.を記載しており、この番号に基づいて説明をさせていただきます。

早速ですが、ページNo.1、「これまでの検討部会での主な御意見(要旨)」を御覧ください。こちらは、今年度、6月から11月にかけて3回開催させていただきました本部会におきまして、委員の皆様方から頂戴した主な御意見を記載したものでございます。

まずは共通テーマとして、「歴史・文化・景観など京都ならではの視点や、現在も歴史とともにあるとの認識が必要。」、「歴史的なものや伝統産業があるエリアが、どこに集積して

いるか、どういう経過でまちができてきたのかといった観点で、地域の特性を捉えていく必要がある。」、「京都のまちの環境そのものが魅力と感じて定住している人がある。中心部やニュータウンなど、地域特性に応じたメリハリの利いたまちの魅力づくりが大事。」、「中心部と周辺部との調和、北部の山間部なども含めた視点が必要。」、「持続可能な都市を考える上で、定住人口と産業・働く場の確保は大事なテーマ。」、「環境に対して安定感があることは、都市の持続性に貢献する。」、「地域ごとの特性をしっかりと見て、一つの方向性ではなく、ものづくり産業にも住む人にとっても魅力のある、細やかなゾーニングを丁寧に考える必要がある。」といった御意見を頂戴しました。

次の2ページを御覧ください。「(2) 定住人口」についてでございます。

「地域コミュニティが重要な役割を果たしてきており、コンパクトなまちが沢山あったとも言える。この小さな単位をしっかりと生かすことが重要。」、「子どもの頃から祭事などを通じて京都の歴史や文化に関わることが、後の定住につながる。」、「ニュータウンなど一時に広がった地域や、郊外にある古くなった住宅についても目を向けていく必要がある。」、「ライフステージに応じた都市のゾーニングができれば、もっと京都全体が定住人口を受け入れることができる。」、「空き家について、町家と一般住宅、中心部と郊外部など、それぞれの要因を把握することが重要。登記の問題もあるのではないか。」、「若い世代が市内で住宅を購入できず、周辺都市に流れている現状がある。」、「住工の混在は、職住近接の面で京都の良い部分でもある。歩くまち・京都の考えのもと、子どもの遊び場や高齢者が散歩できるようなまちづくりが必要。」、「住宅の供給が需要に比べて十分かどうか。地域特性に合った方策を。」、「持続可能な都市を考える上で、定住人口と産業・働く場の確保は大事なテーマ。」、「住む場所と働く場所が両方あることは都市の競争力につながる。」、「若い女性が住み、働く場所として選ばれるまちづくりが重要。子育ても考慮して、駅周辺の利便性の向上などコンパクトな環境が必要。」といった御意見を頂戴しました。

3ページを御覧ください。「(3) 産業・働く場」についてでございます。

「ブランド力が高い京都に進出したい企業がたくさんいる。京都で事業することによる付加価値は大きい。」、「企業の市外流出を止めることが大事。そのためには市内でまとまった土地を確保するための方策を考えていく必要がある。」、「都市活力や産業振興のためには、一定まとまった産業用地を生み出す努力が必要。あわせて、小さくても市内に点在している空き家を活用した用地確保も一つではないか。現在の未利用地も視野に入ってくるかもしれない。バリエーションを持つておくことが必要。」、「オフィス不足は企業の進出機会を逃している可能性もあり、何とかしなければ。」、「空き家や住工のバランスの悪さなど、非効率なものをどう効率的にしていくか。」、「大学生が人口の1割を占める京都の特性を活かすべき。京都で学び、働き、暮らすことを実現したい。卒業後に働く場所が少なく、魅力的な中小企業はあるが、東京・大阪に出てしまう。」、「持続可能な都市を考える上で、定住人口と産業・働く場の確保は大事なテーマ。」、「住む場所と働く場所が両方あることは都市の競争力につながる。」、「京都の産業の今後の方向性や、どのような産業を必要とするのかを明

確にし、戦略を立てて土地利用を考えるべき。」という御意見を頂戴しました。

4ページを御覧ください。「(4)文化」につきましては、「歴史・文化・景観など京都ならではの視点や、現在も歴史とともにあるとの認識が必要。」、「歴史的なものや伝統産業があるエリアが、どこに集積しているのか、どういう経過でまちができてきたのかといった観点で、地域の特性を捉えていく必要がある。」、「子どもの頃から祭事などを通じて京都の歴史や文化に関わることが、後の定住につながる。」といった御意見を頂戴し、「(5)交流人口」につきましては、「観光客などの交流人口についても重要な視点として捉え、市民生活への影響を考慮しつつ、より回遊性を持たせることがまちの価値を生かすことにつながるのではないか。」、「都心部と周辺部との調和、北部の山間地なども含めた視点が必要。」といった御意見を頂戴しました。

続いて5ページを御覧ください。「課題項目と論点整理」についてでございます。

こちらの表は、この間の部会において、私どもから今後の検討の視点として提示いたしました本市の課題項目について、委員の皆様から頂戴した御意見も踏まえ、5つに整理したうえで、論点の整理を行ったものでございます。また、右側には想定される主な対応項目として、大きく4つに分けた対象エリアとの関係性を記載したものでございます。

続いて6ページを御覧ください。こちらのスライドも前回までの部会でお示したのですが、「今後の検討に向けた4つのアプローチ」として「定住人口」「産業」「文化」「交流人口」を挙げさせていただきました。スライド中ほどの黄色の吹き出し部分ですが、基本的な考え方として、①の定住人口につきましては、「京都ならではの持続可能な都市の構築の検討に当たっては、人口減少への対応と同時に歯止めをかけることが重要」であり、②の産業につきましては、「都市の持続性を考える際、定住人口の確保とともに産業の振興が重要」であると考えております。そのうえで、「各地域の特性を踏まえた産業・働く場と居住地のあり方、まちの魅力の向上に向けた検討」が必要と考えております。併せて、京都ならではの要素として「③の文化」や「④の交流人口」に対するアプローチも加え、スライドの一番下の箱書きですが、今後、都市計画マスタープランの実効性をより高めるプランの検討を行うとともに、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略や各局施策との分野横断的な連携・融合を図っていくこととしております。

続いて7ページを御覧ください。「京都市が目指す都市構造」についてでございます。

今回の検討に当たって、改めて本市の都市構造についての基本的な考え方を記載しております。

京都市が目指す都市構造に関する方針としましては、21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す「京都市基本構想」に「保全・再生・創造を基本としたまちづくりを勧めること」が掲げられており、この基本構想の具体化を図るための「京都市基本計画」において「保全・再生・創造の都市づくりを基調として、地域ごとの特性を生かすための多彩で個性的、かつ秩序ある土地利用の展開や、地球環境への負荷の少ない集約的な都市機能の配置を図ることにより、様々な都市活動を持続的に展開できる都市を実現する。」とされてお

ます。さらに京都市基本計画と連携を図りながら、都市計画の分野に関する事項の方針を示す「京都市都市計画マスタープラン」においては、「これまでの保全・再生・創造の土地利用を基本としながら、交通拠点の周辺に都市機能を集積させるとともに、地域コミュニティを基本とした生活圏の維持・構築を図ることで、それぞれの地域が公共交通等によりネットワークされた、暮らしやすく、地球環境への負荷が少ないエコ・コンパクトな都市構造を目指す。」としております。さらに、これらの方針の下、平成26年3月には、学識者等で構成する検討委員会において「駅周辺にふさわしい都市機能の集積のあり方」について議論をいただき、提言をいただいております。

提言の内容につきましては、次の8ページに概要を掲載しておりますので御参照ください。

恐れ入りますが、1ページおめくりいただき、9ページを御覧ください。「本市を取り巻く状況」について、この間の検討や部会での議論を踏まえて一枚にまとめたものでございます。

まず、都市特性といたしましては、「三山に囲まれた盆地に、特色ある地域が形成されたヒューマンスケールなまち」であること。また、「生活サービス・都市インフラが充実し、それぞれの生活圏がネットワークされたまち」であること。さらに、「市域全域にわたり、多様な地域資源・生活文化が存在するまち」であることが挙げられ、これらを踏まえ、本市にはこれらを次の世代に受け継いでいく「未来に向けた責任がある」ものと考えております。

また、「2の都市の持続性のための基礎的課題」といたしまして、4つの観点から記載しております。まず、「(1)人口減少・少子高齢化」といたしまして、「ア 市内周辺部での定住人口の減少、高齢者人口の増加が顕著」であること。また、「イ 20代の若年層が就職期に東京・大阪圏へ転出していること。また、30代が結婚・子育て期に近隣都市へ転出していること。」、さらに「(2)産業・働く場」といたしましては、「ウ まとまった産業用地・オフィス空間の確保」や「エ 工業エリアにおける用途混在」を挙げております。

また、京都ならではの課題として、「オ 1200年を超える京都の歴史・文化の継承と創造」、「カ 市民生活と観光との調和、市内周辺地域の活性化」なども課題として挙げております。

なお、課題データの詳細につきましては、別綴じの資料編を添付しておりますので、適宜御参照ください。

次に、10ページを御覧ください。「持続可能な都市の構築の検討」についてでございます。

本市では、先ほど掲げておりました課題等への対応を含め、持続可能な都市の構築を目指して、都市計画マスタープランの実効性をより高めるプランを検討してまいりたいと考えております。そのプランとして、仮称でございますが、「持続可能な都市構築プラン」を検討したいと考えており、先ほど御説明いたしました、京都市基本構想や基本計画、また都市計画マスタープランの基本的な方針をしっかりと踏まえながら、その実効性をより高め、将

来にわたって安心して暮らし続けられるまちづくりに向けて、持続可能な都市のあり方や、その実現に向けた方針を示すものとして位置付けてまいりたいと考えております。そして、スライド左下に記載しておりますが、プランの役割として、市内各地域の姿と関係性を位置付けるとともに、具体的な施策に結び付けていくための指針としていきたいと考えております。

次に11ページを御覧ください。こちらでは、今後の検討フレームを記載しております。

表の左側には、本市の都市の構造について、現行の都市計画マスタープランでの位置付けを記載しております。それらについて、今回の検討のフレームとして、スライド上の①ですが、これまでの「保全・再生・創造」の土地利用を基本としつつ、持続可能な都市構造を目指し、都市計画マスタープランの考え方を踏まえて、各地域をそれぞれの関係性を考慮しながら分類し、基本的役割と将来像を明らかにすることを考えております。その上で、②として、各地域に応じ地域ごとに必要な施策の方向性等を検討し、都市計画マスタープランの実効性をより高めるプランの策定を目指してまいりたいと考えております。

具体的には、スライド中ほどの着色部分ですが、今回、地域を大きく5つに分類しております。

なお、都市計画マスタープランで位置付けております各地域につきましては、資料2としてイメージ図を用意しております。恐れ入りますが、この11ページとあわせて、資料2を御参照いただけたらと存じます。

スライドの11ページですが、まず、都市マスで都心部と位置付ける四条烏丸を中心とした幹線道路沿道・職住共存地区、京都駅周辺につきましては、今回、「広域拠点エリア」として分類し、京都の都市活力を牽引する役割を担うエリアとして、多くの来訪者の活動を支えるとともに、都心居住による京都らしい都市空間を創出するエリアとしてまいりたいと考えております。また、都市マスにおいて主要な公共交通の拠点と位置付ける23拠点につきましては、今回、「地域拠点エリア」として分類し、定住人口の求心力を担い、ニーズに応じた都市機能の更新を促進し、ライフステージに応じて必要な機能を効率的に利用できるエリアとしていくこと、また、次の生活圏につきましては、都市計画マスタープランでは特定の地域を指定しているものではございませんが、今回、「日常生活エリア」として分類し、定住人口の生活の場として、多世代が安心・快適に居住し、地域のコミュニティ・文化が継承される京都らしい暮らしを実現するエリアとして検討を進めてまいりたいと考えております。また、ものづくり拠点につきましては、都市マスでは工業・工業専用地域をはじめ、京都リサーチパーク地区、らくなん進都などを指しておりますが、これらについて、今回、「ものづくりエリア」として分類し、産業の集積を担い、京都にふさわしい生産、業務、研究開発機能等の集積を促進するエリアとして検討を進めてまいりたいと考えております。また、市街化調整区域をはじめとする緑豊かな地域につきましては、地域の生活コミュニティ・文化の維持・継承を図るエリアとして検討を進めてまいりたいと考えております。また、それぞれのエリアが、地域コミュニティ、産業、文化、歴史を持ちながら、相互にネットワ

一クされた都市構造を目指してまいりたいと考えております。その上で、スライド右側に「今後検討」と記載しておりますが、次回以降の部会において、これらのエリアを具体的にどのように落とし込んでいくかや、今後の施策等に結びつけていくための方向性等について検討してまいりたいと考えております。

続いて12ページを御覧ください。ここからは、先ほどの5つの地域の分類ごとに個別に記載したスライドでございます。まず、12ページは、「広域拠点エリア」についてでございます。一番左側ですが、このエリアでは、京都の都市活力を牽引するエリアとして、広域、高次の都市機能の集積、交通結節など交流基盤の確保、働く場の提供などの役割を担う地域と考えております。表の中ほどには、都市計画マスタープランでの位置付けと方針、また、現状を記載しております。現状として、商業・業務機能の集積が図られている一方で、ホテル用途の土地利用の増加や、オフィス空間の供給減少、また、観光客の増加による混雑などが見られることから、一番右の部会の御意見等を踏まえた今後の課題項目として、全地域共通の項目として、①から⑤までの5点のほか、○印の3点を本エリア特有の項目として挙げております。市内外からの多くの来訪者の活動を支え、将来にわたって都市活力を維持・向上させる都市機能の確保、京都らしい都心空間の創出、京都の玄関口にふさわしい機能的な都市環境整備が必要であると考えております。

次に13ページを御覧ください。「地域拠点エリア」についてでございます。この地域は、定住人口の求心力となるエリアとして、生活を豊かにする機能の集積、生活圏からのアクセスの確保、働く場の提供といった役割を担う地域と考えております。中ほどに記載の現状として、商業・業務機能が一定集積している一方で、近隣都市との魅力の競合が生じていると考えられることから、課題項目として、全地域共通の項目のほか、ライフステージに応じて必要な都市機能が効率的に利用できるまちづくり、時代の変化やニーズに応じた都市機能の確保・更新を図っていく必要があると考えております。

14ページを御覧ください。「日常生活エリア」についてでございます。このエリアでは、定住人口の生活の場として、人口密度の確保、日常生活サービスの維持、地域コミュニティ、生活文化の継承といった役割を担う地域と考えております。現状として、日常生活サービス機能が概ね充実しているとともに、暮らしに根付いた生業や文化が形成されている一方で、高齢化の進行、生産年齢人口が減少し、地域コミュニティの担い手が不足していること、近隣市につながる鉄道沿線の周辺部等において子育て世代が流出していること、空き家の増加などが生じていることから、今後の課題項目として、共通の項目のほか、人口密度の維持、日常生活の利便性・安心安全の確保、次世代を担う子育て世代に選ばれる居住環境づくり、京都ならではの暮らしや地域コミュニティの継承、ニュータウンなどの郊外型住宅の活用などを図っていく必要があると考えております。

15ページを御覧ください。「ものづくりエリア」についてでございます。このエリアでは、産業の集積を図るエリアとして、操業環境の確保、産業の活性化・働く場の提供といった役割を担う地域と考えております。現状として、ものづくり都市として多様な企業が立地

している一方で、住宅・商業系の建物が増加していること、まとまった産業用地を確保するため、市外へ企業が流出していること、充実した都市基盤があるが、新たな企業立地が進展しないこと、地価が高いこと、また、らくなん進都では、ロードサイド型の店舗が増加していること、産業用地の魅力が十分に活用されていないことなどから、課題項目として、共通項目のほか、エリアに応じた操業環境の確保、京都にふさわしい産業立地、一定まとまった産業用地・空間の確保を図っていく必要があると考えております。

16ページを御覧ください。「緑豊かなエリア」についてでございます。このエリアは、地域の生活・文化の継承を図るエリアとして、交流人口の呼びみや地場産業の活性化などを図っていくことが必要と考えております。現状として、特色ある集落が存在する一方で、人口減少が進行していること、地域コミュニティ・文化の後継者が不足していることから、課題項目として、共通項目のほか自然環境の保全、移住・定住の促進、都市部との文化・経済的な交流、農林業・観光振興を図っていく必要があると考えております。

17ページを御覧ください。「論点メモ」についてでございます。こちらは、これまでの部会で頂戴しました御意見等を踏まえ、私どもにおいて、本日御議論いただきたい論点を記載したものでございます。

- 1 各地域の基本的役割や将来の姿，関係性
- 2 都市の持続性・活力，市民の豊かさを高める都市機能の配置
- 3 多世代が安心・快適に暮らせるまち
- 4 人口流出を抑制し，若年，子育て世代に選ばれる居住環境
- 5 操業環境の確保や産業用地・空間の創出

といった観点から御意見をいただき、今後の検討に繋げてまいりたいと考えております。

なお、続く18ページには、参考として公共交通の駅の分類を掲載しております。横軸に各駅の年間乗降客数を、縦軸に公共交通駅の周辺500mにある商業・業務・医療施設の延床面積を示したグラフでございます。駅名の赤字は都市マスに位置付けた「主要な公共交通の拠点」、赤枠と青枠は「駅周辺」の検討での分類でございます。適宜、御覧いただけましたら幸いです。

事務局からの説明は以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○川崎部会長 ありがとうございます。今までの議論をコンパクトにまとめていただきましたので、これに従って、持続可能な都市の構築の方向性について、引き続き議論を行いたいと思います。

ただ今の事務局の説明につきまして、御意見、御質問等がございましたら、自由に御発言いただきたいと思っております。

○葉山委員 P8に「地域複合拠点」とありますが、他の部分では「地域拠点」「地域拠点エリア」となっています。ここだけ「複合」が入っているのはなぜでしょうか。

また「ものづくりエリア」という表現について、KRP等はものをつくっているだけでなく、研究開発もあります。「ものづくり」というと伝統工芸をイメージしてしまうので、

「産業推進」「産業拠点」「産業創出」等の名称の方が良いのではないかと思います。

それから、資料2のイメージのマップについて、具体的にまとめていく際、5つのエリアの線引きはどうなるのでしょうか。意見としては、あまり細かく線引きするよりも、ルーズな方が良いと思っています。

○事務局 「地域複合拠点」と、今回提示しました「地域拠点」の名称と内容について御質問をいただきました。「地域複合拠点」は駅周辺にふさわしい拠点として、検討委員会で市内の130駅を丁寧に調べていただき、様々な観点から分類をしたものです。今回はその検討内容も踏まえて、新しく地域を分類するために、駅周辺の考え方は踏襲させていただきながら、それ以外にも新しい要素を様々な情勢を踏まえまして加味していきたいと考えております。その際に全く同じ名称では、駅周辺の時の分類と同一イメージになってしまうかもしれないという懸念がありましたので、今のところは、駅周辺で分類していただいた「地域複合拠点」をそのままトレースしたものではないという意味と、幅を持って考えたいということから「地域拠点」という名称にしております。ただ、名称は決定したわけではなく、いただきました御意見も踏まえて、もう一度しっかりと考えたいと思います。

「ものづくりエリア」の名称につきましては、確かに「ものづくり」にもいろいろな種類がありますので、偏ったイメージを与えることのないよう、あるいは我々の方で「こういう機能を高めたい」というものにふさわしい名称、あるいは分類を本日の部会でも御意見をいただきながら、しっかりと組み上げていきたいと考えております。

3点目の御質問はエリアをどのような形で線引きするかということですが、今回、資料2に落とし込んである絵は、鉄道の駅から半径800mで線を引いたものです。今後、この辺りを中心に、そのエリアにどのような役割を担わせ、どういう手立てを打っていくかということを検討するために、今は便宜上、半径800mで均一に線を引いていますが、本日いただいた御議論を踏まえて、今後、このエリアをどうしていくのかを考えていきたいと思っております。ある程度幅を持って考えていくべきという御意見は大変参考になりますので、十分にそれを踏まえて、検討してまいりたいと考えております。

○川崎部会長 「地域複合拠点」という言葉は、観光客および住民の方々の両方の性格があるという意味で「複合」とされ、施設配置そのものの複合化という話ではなかったように思われます。それについては、ここで議論された時の定義も確認していただければと思います。

○事務局 説明不足で申し訳ございませんでした。「地域複合拠点」について、我々の方でお願いをしておりました検討会の方では、市内の広範囲から人の往来がある拠点、周辺地域から往来がある拠点、それから鉄道・バスの交通結節点としての拠点、今後のまちづくりの展開により拠点となる駅周辺という4つの特性を持った拠点であると分類していただいております。この考え方を踏まえて考えていきたいと思っております。

○川崎部会長 半径800mというのは駅から10分以内で歩ける範囲ということで、不動産物件なら価値が高いエリアになります。

○島田委員 葉山委員が指摘された「ものづくり」という名称については、P15の「ものづ

くりエリア」で「産業」や「工業」「工業専用地域」という言葉が出てきます。「ものづくり」は伝統産業と言われ、それ以外に世の中の統計的には「工業地域」や「工業専用地域」を一括りで言われますが、京都の場合は、まとまった産業用地の要る産業や企業がある反面、例えば、オフィスビル1室で展開できる産業もあります。今回、「ものづくりエリア」としても、京都はまとまった工業地域をつくることを全面的に押すこともできないところで、逆に言えば、最も集約している四条河原町のオフィスに、例えば、小さいオフィスでもできるコンテンツ産業やIT産業が入るとか、あるいは、昔からある職住近接の京都の伝統産業等、もう少し丁寧な分類をした上で、どの地域でどの産業を重点的に行うかという分類で議論をしなければ、危険ではないかと思えます。

例えば、企業の人が京都のブランド力を求めて来ると言っても、伝統を求めて来ているのかどうかは分かりません。京都にはIT等の最先端の人たちも求めて来ていますし、特に文化とITはつながっているところもあります。私は芸術には疎いのですが、今は情報管理とアートがつながるようになって、そういうところには、京都や自分たちが思う魅力のあるところで展開することをアピールする企業もあります。

したがって、参考1の資料編等で、京都だけでも良いので、工業地域の出荷額等を出して、「ものづくり」や「産業」等、細かく分類し、エリアに落とし込んでいく時に、どういう産業が伸びているのか等、考えた方が良いのではないかと思えます。

同じような観点で「魅力」や「京都らしさ」という言葉が出てきますが、これも複数あると思えます。もちろん一番の魅力は「文化」や「伝統」だと思えますが、それ以外にも炙り出して、それと産業と地域でどのエリアがどの産業と魅力で勝負していくのか等、そういう分類の観点からも見ていく必要があると思えます。今後、具体的に地域を分けて考えていく時には、その辺りを丁寧に見なければ見誤る可能性もありますし、そういう時にデータ等の資料が必要になると思えますので、そういう観点で調べていくことも必要ではないかと思えます。

○川崎部会長 貴重な御意見だと思えますので、補足されることはありませんか。

○事務局 貴重な御意見をありがとうございます。「ものづくり拠点」は工業・工業専用地域という特定の書き方をしていますが、今回は取り掛かりとして都市計画マスタープランをベースに分類しており、「ものづくり拠点」が工業・工業専用地域とらくなん進都、KRP地区となっております。今回の資料でも、日常生活エリアでも、職住接近という部分においても、京都の生業に通じるような産業といえますか、伝統産業等いろいろありますので、そういうこともしっかりと受けて検討していかなければならないと思っております。

その時に、特にアートや文化と産業の兼ね合いをどのようにミックスしていくのかということが課題であり、京都の魅力となって他都市にないような、京都ならではの質、文化の継承、それにつながるような方向性を検討しなければならぬと、御意見をいただいて思いました。データについても、今は手元に細かいものはありませんが、今後、しっかりと分析する中で導入や地域の姿等を整理していきたいと思っております。

○川崎部会長 今回の御意見は非常に重要で、来年度に向けて、丁寧に議論していく必要があるということです。今年度の段階は、可能性も含めて幅広く議論していくということで、何が課題で、どういう方向のメニューがあるのか、御指摘いただいたような IOT 等も進んでいますので、それに応じた産業づくりがどうあるべきなのか等、具体的に来年度に向けて落として良ければ良いのではないかと思います。

○島田委員 言い忘れたのですが、魅力のところ、「京都議定書」という言葉があるように、京都は COP の時には代表団を派遣していますので、地に足がついていないところもありますが、環境も魅力の 1 つとして忘れないようにしなければならないと思います。また、パリも「パリ協定」という言葉ができたことによって、それを全面的にアピールしています。それに関して、今、アメリカが揺れています、アメリカも自治体レベルでは独自に環境をアピールして参加するとか、企業にも「国は脱退したけれども、企業として環境対策は避けて通れないので、独自に参加する」という風潮もあります。

そういう意味では、京都も名称が付いた議定書があるので、住民の魅力としてはまだまだ詰められていないかもしれませんが、企業がそこを考えて来ることがあるかもしれませんし、そういう魅力を、産業の分類と重ね合わせて発掘していく等、今後の方針として忘れないようにしていただきたいと思います。

○川崎部会長 これは非常に重要な視点だと思います。この議論をする時には、駅勢圏の問題等もありますが、ベースに自然環境や風致等があった上で「都市構造をどうするのか」を考えなければなりません。その前提を我々は当たり前だと思っていて、逆にここにはあまり記載されていないようですが、COP3 以降、都市計画の中には SDGs を基本にしていくところも多いと思います。

それから、京都の場合はそういう環境が基盤になっている部分があります。図面で言えば、景観の計画で扱っている風致等があり、例えば、岡崎の文化地区等も駅とは少し離れていますが、元々駅勢圏でも鴨川沿いに近かったりするので、鴨川の風致や周りの東山の風致等をこの図面に足し合わせて、それがベースになって、オーバーレイした上にこれがあるというようにものを見ていくと、駅だけのものの見方ではなく、東山と駅との関係や鴨川と駅勢圏との関係も出てくると思います。それは恐らくベースにある自然環境が基本になっていると思いますので、どこかで触れてほしいと思います。私は資料 2 のベースに、もう 1 枚そういう図があると良いのではないかと思います。島田委員の御意見は重要だと思いますので、検討していただきたいと思います。

もう 1 つ、可能性を広げられると思うのが、前回の議論で御意見をいただいたように、ある程度の面積で、ある程度の機能がまとまった部分で、製品をつくり出したり、PR したり、研究したりする場所があっても良いのではないかと思います。今まで、京都にはそういうまとまったものがなかったので、そういう意味でのまとまったものを検討する可能性は十分にあるのではないかと思います。その辺りも含めていかがでしょうか。

○牧委員 島田委員が言われた「環境を基本とする」ということを踏まえて考えると、「持

「持続可能な都市」の意味するところは分かりにくいと感じます。「持続可能」の意味するところは、SDGsのような話では広いのですが、一般の方が聞かれると環境の問題だと思われる。我々が今検討しているのは「京都が今後も生き残っていけるのか」という観点だと思いますので、後からでもサブタイトルを付けた方が良いのではないかと思います。

当然、京都の良さというものはあるのですが、災害のことを研究している私から見ると、都市が元気でなければ、災害に遭われた後、生き残ることはなかなか難しいと思います。先ほど部会長が言われたように、今を守っていただくだけではなく、次の何かに手を伸ばしていなければ、もし何か起きた時に困ってしまうことになるかもしれません。将来的にぬくぬくとして生きていける時代であれば良いのですが、それは難しいですし、京都の歴史を考えると、常に新しいことにトライしてきたことが今の京都につながっているわけですから、大きな未利用地の利用可能性等も考える必要があると思います。ただ、未利用地というのは災害に対して脆弱な側面もあります。例えば、洪水に対する危険や液状化の危険性等の面もあるので、災害への対処はそういうことを考える上でもきちんと考える必要があると思います。

2点目に、先ほどの地域拠点エリアの図と資料1のP18に公共交通駅の分類を見ますと、年間乗降客数300万人を超える駅の中に主要な公共交通の拠点になっていない駅があります。例えば、東福寺は観光による利用だと思いますし、丸太町は京大病院を利用する方が多く乗降されているかもしれませんが、実際にどういう人が乗降されているのかを明らかにした上で、その中で特に地域に根差しているようなところを抽出してみることが必要ではないかと思います。

ここで面白いのは向島ニュータウンや、またKRPのある丹波口駅等は大変な人が乗降しています。私は宇治ですので、二条駅から宇治に帰る時に地下鉄で帰る方法とJRを乗り継いで帰る方法があり、六地蔵から円を描くので、私は京都の環状線と呼んでいます。京都駅までの間、二条駅～丹波口は南北にがしっと1本のきれいな軸が走っていて、都市計画を見ているとKRPや中央卸売市場もあり、ここに産業が集積しているというイメージがあります。ここにもう1つの軸を何か考えられないかと思うと、この乗降数の分類から考えて、丹波口は重要な拠点のような気がします。それから、洛西ニュータウンは京都のニュータウンの1つで公共施設もかなり集積していますので、ここに何も印がついていないのは疑問です。

したがって、この図において、どういう理由でその駅を使っているのかを精査することが必要だと思います。また、バスの集積するところに関しても、公共交通の拠点、地域の拠点として今後検討していく必要があると思います。

○川崎部会長 P18の表について御指摘をいただきました。洛西ニュータウンはバスになりますが、この表は駅だけなのでバス停は入っていないようです。

いかがでしょうか。重要な御意見をいただきましたが、KRPのある丹波口は新駅のできる限界も含めて1つの拠点になると思います。

P18の左下に集まっているところで、白梅町や北山等を今後の成長過程によって将来的

に位置付けると、核が上に上がっていく可能性もあるので、冒頭で葉山委員が言われたように、緩やかな考えの方が良いかもしれません。その辺りはいかがでしょうか。

○事務局 統計の取り方になりますが、資料2は、これまで都市計画マスタープランで「主要な公共交通拠点」としていたところで、当時は23ヶ所で、バスターミナル的なものや洛西ニュータウンは入っていませんでした。ただ、重要な拠点もありますので、このままにするのか、地域バランスを考える中で、他に必要な拠点があるのかどうかにつきましてはしっかりと検討したいと考えております。

また、特に丹波口はKRPもありますが、昔は単線だった山陰線が複線化されて十分に輸送力も上がっているというところもあります。一方、京都市も地下鉄東西線が二条駅から延びて、段々と西の方に市街地、あるいは都市基盤が延びているという状況もありますので、いただいたご意見を含めまして、都心のあり方、拠点のあり方をしっかりと検討していきたいと考えております。

○川崎部会長 新しいトライという意味で、将来に向けてここの拠点に丹波口の軸を入れるという議論が今まではありませんでしたので、非常に重要な御指摘だと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 それから、目的交通について御指摘をいただきましたが、これは我々も大事だと思いつつ、極めて悩ましいところでもあります。乗降客が何の目的でその駅を利用しているのかというデータの取り方については、現在は良い方法がないのですが、ただ、どこまでできるかという中で、来年度の予算の中でビッグデータを使う方法を考えています。携帯電話のシグナルを利用する方法で、個人情報の問題もあるために、どこまで精緻にできるのか、あるいはできないかというところも相談しなければなりません。ルートが分かると、例えば、いつも東京の中を動いている動線が京都に来たら観光目的だろうと判断もできます。

もちろん、個人情報の関係があるので集合体としてしか出せませんが、そういうことができるようになる、あるところを移動している塊が何の目的を持つ人なのかということが少しは分かる可能性があります。個人情報の関係でどのようにできるかはまだ詰めなければなりません。我々も交流人口と定住人口の住み分け、捌きをこれからどうしていくかということは大事なテーマだと思っておりますので、そういう方法の援用の可能性も探りつつ、あるいはその他の方法も見ながら進めたいと考えております。

○佐藤委員 「持続可能な都市」の意味について、定住人口の観点から意見を述べたいと思います。定住人口は「持続可能な都市」の目的にもなり、指標にもなるという性格を持ったものだと思いますが、最終的にここで課題として挙げられている「地域特性に応じたメリハリのある魅力づくり」は先ほどからの意見にも共通していて、どのように地域特性を読み込んで都市計画に落とし込むのかというところが一番のポイントであり、それでいろいろなジャンルの観点から御指摘があるものと思います。

私は住宅が専門なので、その観点から見ますと、なぜ人口が変化しているのか、増えているところはなぜ増えていて、減っているところはなぜ減っているのかという理由があ

るはずです。それは、その地区の地域特性を的確に表しているのではないかと思います。それを都市計画としてどう読み解いていくのかというところが、重要なポイントではないかと思ひます。例へば、ニュータウンの人口減少は全国的にある話ですが、集合住宅は転出超過で人口が減っています。つまり、世帯ごとに転出して人口が減っているということです。あるいは、戸建て住宅は世帯人数の減少によって減っているのか等、それを把握することによって、住宅政策としては違ふ方針を出していくわけですが、都市計画としては、多世代が居住できない理由は何なのか、子育て世帯が他市に出て行ってしまう理由は何なのかというところから、そこで何をすれば良いのかという問題から類型的に考へて地図に落としてみるということも、1つの方法として今後はあるのではないかと感じます。そのように、空間と課題をリンクさせていくと、多様な議論ができるのではないかと思ひます。

○川崎部会長 ありがとうございます。これから高齢化社会に向けて、多世代で住むことができるのか等、丁寧なデータを取れるのかという課題はありますが、事務局は補足できるデータがあれば御検討いただきたいと思ひます。これについてはいかがでしょうか。

○事務局 今は住民基本台帳のデータ等からしか取れていませんので、増減の理由を詳細に示すデータは出ておりません。ただ、そういう増減の理由につきましても、例へば、区役所や支所の者が地域の方と日頃から密に接しており、実情にもよく通じているところもありますし、我々としても区役所にもこの部会の資料等を提供して情報連携を図るようしておりますので、そういうルートも活用しながらヒアリング等も行っていきたいと思ひております。定量的にデータ化したものを用意できるかどうかは難しいかもしれませんが、持ち得る手法をできるだけ活用して、そういう声を集めていきたいと思ひます。以前も御意見をいただいたようにアンケートをしてみる等、そういう方法もあるかと思ひますので、できることから取り組んでいきたいと思ひております。

○佐藤委員 膨大な作業を行うということではなく、ある程度、類型的に市街地を捉えてみて、多世代居住が急激に減っているところがあれば、その理由は何か、あるいは、子育て世帯が減っているところがあれば、その理由は何か、逆に他市では増えているところがあるという話も伺いましたので、そのように増えているところと減っているところではどのような条件が違ふのかということをはるだけでも類推することができると思ひます。もちろん、すべてを数字で出せるものではないと思ひますが、その辺りを考へてみると、都市計画として定住人口を確保するにはどこで何をすれば良いのかということが少し分かるのではないかと思ひます。

○川崎部会長 病院やサービス施設とも関わりがあることだと思ひます。

○事務局 御指摘いただいたことに関して言ひますと、例へば、先ほどアンケートを挙げましたが、「働く場」の議論の時に入って来る企業と出て行く企業の理由について調査を行いましたので、あのようなイメージのことができれば検討したいと思ひます。

○川崎部会長 前回、板谷委員から御意見をいただく時間がありませんでしたので、御意見を伺いたいと思ひます。いかがでしょうか。

○板谷委員 言えなかった意見を書かせていただきましたが、それに加えて、今も地域特性の話、京都らしさや魅力は何かという御指摘がありましたので、歴史文化の立場から述べさせていただきますと思います。

例えば、P1の「共通テーマ」に「歴史・文化・景観」について出ていますが、今後の地域特性を考える上で、先ほど部会長からも話がありましたように、レイヤーを増やすことがもう少し必要ではないかと思えます。「歴史・文化・景観」という意味では、他部会でも検討されている社寺とその周辺の景観のポイントや、その次の「歴史的なものや伝統産業があるエリア」は町家の分布等を見れば分かりますので、そういうものをレイヤーとして加えて、その地域的特性を明らかにした上で今後の都市構造を考えていくことが必要ではないかと思えます。

2点目に、P2の「子どもの頃から祭事などを通じて京都の歴史や文化に関わることが、後の定住につながる」という意見に対して、きちんと答えるべきだと思います。例えば、京都市内で巡行を伴う祭事をしている神社の位置等も基礎的な資料として加えていただくと、どこに子どもを育てるべきエリアがあるのかということが分かりますので、また別の定住に関する要因として、今後、資料に付け加えていただくことを期待します。

○川崎部会長 祭り等を含め、別の部署等も含めて、常に京都はいろいろな調査をされていますので、できる限り幅広くデータを集めていただければと思います。他にはいかがでしょうか。

○宮川委員 P10の「持続可能な都市構築プラン」について、P7に、以前、駅周辺について検討をしたということがあって、P8にその内容が書かれているわけですが、当時は駅周辺の半径500m以内に京都市内の人口の5割以上が住んでいるというデータがあったと思います。これから少子高齢化が進んで、車の運転もし難くなることを見据えますと、例えば、公共交通のバスに乗って駅周辺の病院に行く人も増えると思いますし、あるいは若い人も含めて考えますと、京都駅のようなところに大きな集客施設をつくれれば、都市活力の助けになるのではないかという観点での検討をしていたと思います。

それで、今回の持続可能な都市構築プランをすると、重複すると思いますが、前回の駅周辺は「これから駅周辺に人が集まるだろうから、そういうところに福祉施設やいろいろな商業施設等を集めなければ活力がなくなるのではないか」という視点だったと思います。それに対して、今回の持続可能な都市構築プランは、そういう視点もありながら、若干視点を変えて、例えば「なぜ人口流出が起きているのか」とか「若い人が住み難くなっているのはなぜか」とか「なぜ企業が京都市から出て行ってしまうのか」等の視点もしっかりと検討していると思いますので、そういう面言えば、「持続可能な都市構築プラン」という名称はともかく、こういうプランはしっかりと都市計画マスタープランに関連して作っておくべきだと思います。

それに関連して、P11に検討フレームとして5つのエリアが挙げられており、これは基本的に都市計画マスタープランを踏襲した分類ということで、概ねこの方向で良いと思いま

すが、これだけでは具体のイメージが分かりにくいので、これからしっかりと掘り下げていかなければ、これから市民や議会に説明する時も分かりにくいのではないかと思います。

○川崎部会長 ありがとうございます。重要な御指摘で、マスタープランの中でしっかりとした目標像をつくるのが大事であるということと、時代とともに駅周辺の機能のあり方も異なってくるという御意見をいただきました。最近、若い人が車を購入しなくなり、時代が大きく変わりましたので、歩くまちの拠点として機能を修正していかなければならないということだと思います。

○中嶋委員 本日示していただいたマスタープランでの位置付けの区分や P11 を見て、大学はどこに位置付けられているのか、産業なのかどうかと考えました。京都の魅力の 1 つはこのエリアの中にたくさんの学生が研究できる機関があることで、その方々が必ずしも京都に定着されるわけではありませんが、4 年～6 年間はお客様として来られて、その内の何割かが残られるということを考えると、非常に重要なお客様ではないかと思います。つまり、学校がきちんと京都の中にいられるような都市制度が重要だということです。一時期、面積が足りないということで郊外に出ていた学校もあり、今は戻られています、用地の選択等、いろいろと苦労されています。

したがって、産業の中に入れるのではなく、だからと言って利便施設でもなく、産官学の連携等、産業との関わりでは書かれているのですが、是非、教育機関に対する都市計画上の位置付けも京都の強みとして書いていただければと思います。

もう 1 点、資料 2 の都市構造のイメージ図について、先ほど話があった山陰線は市内において重要だと思いますが、京都の成り立ちや骨格を考えた時に、まだまだポテンシャルがあって可能性がある部分として、山科駅から南に広がっていく醍醐、六地藏までや、桂や丹波橋等のいくつかの拠点が、京都市内とはまた違う独自の文化や性格を持っているので、これから他都市と競合する中で、例えば、比較的値段の安い住宅があつて、外に出なくてもそこに住んで京都に通える、あるいは大阪等にも通えるというような戦略も立てていかなければならないのではないかと思います。この構造やイメージの中に、戦略が見えるようなイメージを落とし込んでいくことがこれからの課題ではないかと思っており、可能性のある場所を検討していきたいと思っています。

○川崎部会長 貴重な御意見をありがとうございます。150 年先のポテンシャルについて、新しく書き換えていくような御提案をいただきました。安いということは大事ですし、郊外をリニューアルする等、いろいろな拠点が考えられます。

それから、大学の重要性についても御指摘いただきました。例えば、北山の文化ゾーンは府立大学を中心に展開されていますし、京都大学の吉田キャンパスや造形大学、府立医大等が集まっている拠点などは出町柳の駅勢圏に入るかもしれません。それから、葛野大路も学園大やいろいろな学校が集まっている大きな拠点で、すでに地下鉄駅の地域拠点エリアの中に入っていますが、もっと広域拠点になりそうな勢いが出てくるかもしれません。そういう意味で、新たなもの、重点的に活力を生んでいくものを、御提言を踏まえて検討していた

だければと思います。

○事務局 今回、資料2のA3の地図は、現行の都市計画マスタープランでの公共交通の拠点をオレンジ色、それから都心部を赤色にしていますが、現行の都市計画マスタープランでは、主要な公共交通の拠点について、交通の結節点という見方をメインにしていたと思います。今回、新しく都市計画マスタープランの実行プランを作るに当たっては、この地域をどのような特色のある地域にしていきたいかということをもう少し丁寧に考えて、さらにそれを組み入れるようにすることが、プランづくりの目的ではないかと思っておりますので、そういう意味では、「ものづくり」についてもいろいろな分類があろうかと思えますし、そもそも大学という視点を位置付けるべきだということ等、様々な御意見を頂戴しており、さらには、駅周辺の考え方もあります。したがって、今回はこのような形で提示させていただきましたが、駅周辺につきましては、洛西ニュータウンの話等もありますので、バスの視点等も丁寧に細かく見ていくことが必要だと考えております。

○川崎部会長 先ほど宮川委員からP11にある都市計画マスタープランの5つの分類について、一般の方に分かりにくいという御指摘がありました。専門家の方々はこれを見ただけで、商業地域、近隣商業地域、工業地域等、色塗りが対応していることが分かれば理解できますが、その辺りを直接書くわけにもいかないところもあり、できるだけ分かりやすく表示できるような言葉を、文面のところ等に補足していただければと思います。これについてはいかがでしょうか。

○事務局 今回、このような形で地域分類をさせていただきましたが、当然、用途地域につきましても都市計画マスタープランの考え方に基づいておりますし、それを具体化した駅周辺の提言も頂戴して、平成27年度に用途地域の変更等も御審議いただき、実行に移しております。したがって、今回、検討フレームを出しておりますが、これと今後我々が目指す具体の用途地域の方向性がしっかりとリンクしていくように、市会あるいは市民の皆様に分かりやすく提示していけるよう、考えていきたいと思っております。現時点では、用途地域との関係性をまだしっかりと関係づけておりませんが、そこがどうなっているのかと疑問に思われぬように、説明責任を果たしていきたいと思っております。

○奥原委員 持続可能な都市をつくるということで、都市計画が基本になると思いますが、実現していくためには文化政策、産業政策、大学政策等、いろいろなことが相まってくると思います。そこで、資料について4点ほど疑問点があります。

1つは、交通の結節点が重要であることは分かりますが、それは動くものだと思います。例えば、桂川駅は元々何もなかったところで、そこに商業施設ができて、大きなマンションができて、人の流動も変わってきていると思いますし、それが地域複合拠点にかなり影響していると思います。実際に、そういうところに魅力が出てくるのではないかと思います。先ほど丹波口の話がありましたが、鉄道博物館や水族館ができて、七条に新駅ができると、また変わっていくだろうと思います。あるいは、サッカースタジアムが着工されていますので、亀岡の流れがまた変わると思います。

そういう中で、複合拠点等に位置付けられるところの魅力が落ちてきているように思われるのが気になります。そこには店舗や業務エリア等のいろいろな要素があると思いますが、どうすれば複合拠点として根付いていけるのか、その辺りの方策が見えません。どのように考えているのかということが気になるところです。

2つ目に、今、京都はホテルブームで、資料にも「京都らしい都心空間の創出」という記載があります。これについて、ホテルができるのは良いのですが、宿泊専用ホテルは市民にとってあまり魅力がありません。レストランがある等、市民も自由に出入りできるようなホテルなら魅力がありますので、その点を誘導するような施策があるのかどうか、教えていただきたいと思います。

3つ目に、前回、中嶋委員が、学生が流入して来るけれども、働くところがないので卒業すると出て行くと言われました。我々は「京で学び、京で働き、京で暮らす」と言っていますが、実際に学生が出て行くのは何が足りないからなのでしょう。本当に働く場所がないのかどうか、市の方で大学コンソーシアム等と連携して調査してみると糸口が見えてくるのではないかと思います。実現するために、もう少し踏み込んだ検討をしていただきたいと思います。

4つ目に、行政はどうしても市境、県境に壁があるようで、隣の県や市町村のことは全く知らない等、悪気がなくても、どうしてもそういう発想が出てきやすいようです。そういう意味で、以前、京都都市圏という議論があったと思いますが、もう少し大きく捉える必要があるのではないかと思います。例えば、石清水八幡宮は随分前から都の裏鬼門を守ると言われていますし、今で言えば、スタジアムも隣の市にできるように動いていくわけですから、京都都市圏もそういう目で検証することが必要ではないかと感じています。

○川崎部会長 ありがとうございます。貴重な御質問、御意見をいただきました。これについて事務局はいかがでしょうか。

○事務局 1点目の複合拠点に関する方策につきましては、今年度あと1回と来年度にかけて時間をかけて検討させていただきたいと思っているのが、まさにその部分であり、都市計画局が都市計画の手法で何か取り組んでいく方法があると思います。例えば、都市の魅力を高めるようなものを提案していただく場合、都市計画の手法として、貢献したものに対して与えられるような方式にする等、そこで見られるようなことがないか、そういう都市計画的なアプローチと合わせて、様々な大学の政策や福祉の政策、医療等の部門との具体的な連携を図りたいと思っています。例えば、あるところを地域拠点に決めて、そこで目指すものを明確にした時に、市の他の分野の施策とも「ここでは福祉の面でどういうことができるか」等、来年度にかけて市内でも議論を深めて、しっかりと実現策につなげていきたいと思っています。もう少しお時間をいただきながら、またこの部会での御意見を頂戴しながら考えていきたいと思っています。

2点目のホテルについても同じですが、宿泊特化型のホテルにつきましては、最近は大きな宴会場のないホテルが多く、レストランも朝食会場代用のようなイメージのところがあ

ります。そういう宿泊施設もバリエーションとしてはあっても良いと思いますが、やはりもう少し上質なものを、いろいろな形の宿泊施設を京都市内に整備していこうという動きがありますので、そういう動きともしっかりと連携を図っていきたいと考えております。

最後の京都都市圏につきましては、御指摘のとおりで、第3回の産業のところでも近隣都市との通勤状況も見させていただきましたが、近隣も含めた視点で今後はしっかりと考えていきたいと思っております。

概略的な話で恐縮ですが、今回、まず地域の分類等を御議論いただきまして、その上でしっかりと役割に応じてどのような施策を取っていくかということを検討してまいりたいと考えております。

○川崎部会長 ありがとうございます。駅は都市の形成手段の一番大きなものの1つでもありますし、駅前広場も、周辺の商店街も含めて、質が高くなければ上手くいきません。例えば、葛野大路のいつも会議をしているところは屋内から西山が見えたり、一步出ると学園大のところにセットバックした緑が続いていたり、そういうデザインの質も非常に大きな影響があるのではないかと思います。北大路のVIVREは古いですが、できた当初に鴨川の近くに屋上緑化ができたと言われたこともあり、長く続いていることの1つの意義はそういうところにあるのかもしれない。古くなってリニューアルしなければなりません、質を上げることは魅力の向上として重要だと思っておりますので、貴重な御意見としてお伺いしたということです。

○須藤委員 P10の「持続可能な都市の構築の検討」について、私は行政法学者ですので、様々な行政計画の整合性をどのように説明するかという視点で、興味深く見ていました。今回、この資料を御提示いただいて、「持続可能な都市構築プラン」という名称でこのように議論していることが、都市計画構成の中でどのような位置付けを与えられるのかというのは非常に重要なことだと思います。

例えば、福祉施設に関してその立地をどうするかという議論がこの中にも入っていますが、福祉サービスの需要と供給は行政計画によって立てられており、その福祉の分野に関してどのように説得力を持って御協力をお願いしていくかという点において、数字のデータによる裏付けを持って、このようなプランを作っているのはとても意義のあることだと思います。単に我々が「これが望ましい」「あれが望ましい」と話し合ったことはもちろん意義深いと思いますが、これまで何となく皆の了解事項であったことを数字で裏付けて、それを具体的な都市計画の指針として活用すべきだという考え方で取り組んでいること自体が、本当に意義深いことではないかと思っております。行政計画によって行政は動いていて、都市計画によってだけ行政が動くわけではないので、他分野の行政計画にどのように働きかけるかというのは難しいことだとは思いますが、だからこそ数字が重要なわけであり、今までの議論の中でも段々と状況が変わって、移り変わっているので、固定的な視点を持って見るのではなく、数字のデータで把握していくことは今後大事なことではないかと思っております。

P10では「持続可能な都市構築プラン」が、京都市都市計画マスタープランの横に並んで

相互の関係になっていますが、この相互の関係をどのように説明するかが重要ではないかと思えます。

○川崎部会長 最終の取りまとめの報告書を審議会に出して、審議会としての位置付けとして公的に役割を説明していただけると有難いのですが。

○事務局 今回、都市計画審議会の中に部会を設置させていただき、1号委員の皆様と市民公募の委員の皆様で検討をスタートさせていただいております。

都市計画マスタープランは、行政計画であり、都市計画審議会の議決事項ではありませんが、重要な骨格の部分ですので、都市計画審議会の皆様方にも報告させていただきまして、そもそも都市計画マスタープランを作る時も都市計画審議会の中に都市計画マスタープランの策定部会を設けていただき、都市計画マスタープランを作ったということですので、ある意味で都市計画審議会と一体となつてつくり上げてきたと考えております。したがって、今回の検討におきましても、都市計画審議会の部会の中でしっかりと御意見をいただきまして、我々の方で作り上げ、改めて都市計画審議会の方にも報告した上で、御意見もいただきまして、策定に向けて進めていきたいと考えております。

○川崎部会長 数字の根拠が強いツールになるという力強い御意見をいただきましたので、それを他部局にもPRして、協力していただくという方向性をしっかりと出していただければと思えます。

○小原委員 地域拠点や日常生活エリアについて触れさせていただきたいと思えます。

例えば「子育て世代に選ばれる居住環境」については、世代のハードルがあつて、高齢者しかいないような選び難いところや、同じ世代の人がいることでロコミがあるところ等、いろいろな要素があると思えますが、その中で必要なこととして、例えば、住居として促進したいところへ誘導するような方策等が必要ではないかと思っております。

もう1つは、地域の拠点に魅力をどう活かすかということが必要だと思えます。今できることとして、例えば、既存の商業施設も、地域のコミュニティ施設や町会所等も魅力になるかもしれませんし、大学等も地域の中での活力として地域拠点の魅力になるのではないかと思えますので、そういうところをどうするかということも重要ではないかと思えます。

○川崎部会長 ありがとうございます。エリアの内容について具体的な御意見をいただきました。

○八田委員 資料2の都市計画マスタープランにおける都市構造のイメージで、バス路線がないという話について、我が家の子どもは今20歳ですが、移動は電車が基本になっています。これにバスを加えると言われていますが、やはり駅がどこにあるかということが、いろいろなことの基準になると思えます。私が住んでいるところは丹波口駅に近く、今度、新駅ができるということで、病院に行くにも、駅に向かうバスを出す等、駅を基準に何もかもが動いていくと思えますので、駅をどう使うかということが大事になると思えます。駅の近くに病院をつくと人が動くし、高齢になるとバス券をもらえますが、いざ高齢になると使わないと思えます。車に乗るにも誰かの協力を得なければならないので、1人で動くとなる

と電車が大事になります。そうすると、都市計画をする時は、駅をどこにつくるかということがとても大事になると思います。観光客がバスを使うと言われますが、住んでいる者にとっては鉄道駅がとても大事になるので、教育や福祉等を考える時に、人々が駅をどう利用するかということを考えていただくと有難いと思います。

○川崎部会長 ありがとうございます。駅の重要性について御意見をいただきました。また、先ほど奥原委員から、10人に1人が学生だけれども、外に出てしまうのはどうしてかという御質問がありました。京都大学の場合は工学部にもものづくりに関連する学生を多く抱えていても、どうしても就職先は、この地域であれば大阪周辺の企業、そうでなければ関東になってしまいます。やはり、京都の企業は、ごく一部の大手や中堅の企業もありますが、ものづくり・製造業に関わる企業が少ないことが影響していると、特に我々の分野では感じています。

皆様方から活発に幅広い御意見をいただきまして、時間が超過してしまいましたので、この議論についてはここで一旦終了させていただきたいと思います。

(2) 今後の想定スケジュール

最後に、資料3「今後の想定スケジュール」について、事務局より御説明をお願いいたします。

資料3

○事務局 資料3を御覧ください。今後の想定スケジュールについてでございます。こちらは現時点での想定ですが、次回は来月3月下旬に第5回の部会を開催させていただきたいと考えております。また、平成30年度も3回程度開催し、案の取りまとめを行ってまいりたいと考えております。委員の皆様方には、大変御多忙のところ恐れ入りますが、引き続きましてお力添えを賜りますよう、よろしくをお願いいたします。

今後の想定スケジュールにつきましては以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○川崎部会長 ありがとうございます。ただ今御説明がありましたスケジュールについて、御意見、御質問等、ございますでしょうか。

(発言なし)

○川崎部会長 ありがとうございます。それでは、後ほど何か御質問がございましたら、事務局の方へ御連絡をいただきたいと思います。

本日も貴重な御意見を多くいただきましたし、新しいアイデアもいただきました。これから事務局の方で御検討いただきたいと思います。本日、委員の皆様方には会議の運営に御協力をいただきまして、ありがとうございます。それでは、事務局にお返しいたします。

3 閉会

○事務局 ありがとうございます。委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。ま

た、傍聴者の皆様、会議の運営に御協力いただきまして、ありがとうございました。本日の会議は終了いたしましたので、傍聴者の方、報道機関の方におかれましては、係員の誘導に従って御退出をよろしくお願いいたします。

なお、本日の部会での議論の内容につきましては、事務局にてまとめさせていただいた上で、次回3月に予定しております第5回部会の内容と合わせまして、4月以降に開催予定の第65回京都市都市計画審議会におきまして、事務局から報告させていただく予定をしております。学識の委員の皆様におかれましては、審議会の方にも御出席をお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

本市におきましては、本日いただきました貴重な御意見を十分に踏まえまして、次回以降に向けて検討を深めてまいりたいと存じますので、引き続きよろしくお願いいたします。

これもちまして、本日の会議を終了させていただきます。委員の皆様、本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。

以 上